

# 令和元年度第1回島田市認知症対策検討委員会

開催日時 令和元年7月29日(月)19:30~21:00

開催場所 島田市保健福祉センター 地域活動室(2階)

出席者 【委員】

島田市医師会(サポート医)	小埜 聡司(会長)
島田市医師会(サポート医)	田口 博之(副会長)
榛原医師会(認知症かかりつけ医)	高木 勇人
地域包括支援センター(第一・北)	栗田 真理
地域包括支援センター(第二)	齋藤 富美恵
地域包括支援センター(六合)	鈴木 桂子
地域包括支援センター(初倉)	紅林 ひでみ
地域包括支援センター(金谷)	塚本 里枝
地域包括支援センター(川根)	島本 淑江
グループホーム(一期一会トータルケア)	大久保 武明
デイサービス(アポロン伊太)	永井 順子
ケアマネジャー(ケアマネットしまだ)	増田 朝美
認知症家族の集い(会員)	大石 豊子
認知症家族の集い(会員)	戸田 奈津子
民生委員	高木 幸祐
島田薬剤師会	清水 雅之
榛原薬剤師会	進士 寿子

【事務局】

健康福祉部長	畑 活年
包括ケア推進課長	酒井 敏弘
地域支援係長	畑中 陽子
保健師	山内 名菜子
書記	曾根 翼

## 1 開会

榛原薬剤師会の進士委員欠席

## 2 委嘱状交付

健康福祉部長より委員を代表して、大石豊子委員に委嘱状交付

## 3 健康福祉部長あいさつ

わが国では高齢化が進展しており、特に独居高齢者、認知症高齢者は著しく増加している。2015年1月、認知症の人への支援を強化する国家戦略として認知症施策推進総合戦略、いわゆる新オレンジプランが発表された。新オレンジプランは団塊の世代が75歳以上となる2025年(令和7年)までを対象期間とし、65歳以上の5人に1人、全国で700万人が認知症になると推計され、島田市にあてはめると約5,700人の方が認知症になると推計されている。

本年6月には認知症推進大綱が示された。大綱の基本的な考え方としては、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる、そのような社会の実現を目指し、認知症の方や家族の視点を重視しながら予防、そして共生を車の両輪として施策を推進していくというもの。市におき

ましても国の方向に沿って認知症への取組を行っていきたいと考えている。

私も今月7日に保健福祉センターで『VR 認知症体験会』に参加させていただいた。この講座は認知症を学ぶのではなく、認知症を体験することにより認知症の方への理解を深めるものであり、認知症の方の心の不安、幻視等を体験することにより、認知症を自分事として考え、適切なサポートのあり方を理解できる内容。大変貴重な体験で、もっと多くの方に体験していただきたいと感じている。そこで、9月21日の世界アルツハイマーデーに合わせ開催予定の「認知症に理解を深めるキャンペーン」の中で特別にVRの器械を3台レンタルし、多くの方に体験していただこうと計画している。会場はアピタ島田店、市でも広報をしていきたいと思っている。是非多くの方に参加していただきたい。

認知症の方やその家族をとりまく環境が多様化している中、認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けるためには関係機関との連携強化、支援体制の整備が求められる。本会議は認知症やその予防について市民への理解を深めるための取組み、あるいは認知症の方やその家族が安心して生活できるための支援、体制づくりについて、本市における認知症施策を協議していただく場です。様々な立場からの活発な議論をお願いします。

#### 4 委員及び事務局職員紹介

#### 5 会長・副会長の選任

事務局案のとおり、会長に小埜委員、副会長に田口委員が承認された

#### 6 会長あいさつ

7月25日に焼津市立総合病院で志太榛原圏域認知症医療連携協議会が開催され出席したので状況をお伝えし、挨拶とします。

県からは、診断直後に不安を抱く認知症患者への対応としてピアサポート事業、認知症の方のSOS体制構築についての検討事業等の報告。連携型認知症疾患医療センター（やきつべの径診療所）からは、ICTを活用した相談事業について、昨年は83件の相談があったと報告。連携型認知症疾患医療センター（焼津市立総合病院）からは、自動車運転免許の自主返納の相談が増えて、関連してMCIの方の相談が増えている。

意見交換会では、2つの大きな問題が話し合われた。1つは若年性認知症について。若年認知症の方が相談できずに困っている現状が予測されており、焼津市ではパンフレットを作成。若年性認知症に関する偏見をなくすための取組について、若年性認知症のみを受け入れてくれる施設が志太榛原圏域に1か所あってもいいのではという意見があった。2つ目は自動車運転免許の返納について。免許の有無に関わらず高齢者の移動手段の検討が必要、又免許を返納しても運転の能力は残っており、返納した事も忘れるという難しい問題があること。

#### 7 報告・検討事項

(1) 島田市の認知症施策について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1

事務局説明

意見

委員) 市でいろいろな取組をしており頼もしく思う。しかし何年も認知症家族の会に参加しているが、まだ参加できなくて家で悩んでいる方が大勢いると思う。そのような方が何とか参加でき、少しでも認知症の方へ優しく接する事ができるといいと感じている。

委員) 認知症の家族の方を支える取組は必要。また、若年性認知症の施設の受け入れには難しさも感じるので取組が必要であると感じる。免許の返納、高齢者の移動手段についても気になる。

委員) 昨年度、初めて認知症初期集中支援チーム員会議を開催。不安もあったがサポート医からの

確なアドバイスをいただき、チーム員会議で立てた目標を達成し、終結することができた。他のケースについても初期集中にかけるかどうか相談にのってもらい、大変心強かった。途中でチーム員が変更し、身内の方と関係が不安定になり信頼関係を保つ事の難しさを感じた。幸い医師と地域の方との繋がりが強かったため、住み慣れた地域での困らない生活が継続できそう。1ケース終了して事で得た事を、今後にも役立てていきたい。

## VR認知症の映像視聴・みまもりあいプロジェクトについて事務局説明

### 意見

委員) (みまもりあいプロジェクトについて) 協力者が少ないと機能しないという話があったが、自分が住んでいる菊川市の取組について紹介したい。犬の散歩をしている時に、オレンジのバンドナをつけている犬がおり、聞くと平成29年度から菊川市で「わんわんパトロール隊」という事業を実施。飼い主が認知症サポーター養成講座を受講し、飼い主にはオレンジリング、愛犬にはオレンジバンドナを配布し、パトロール隊を結成。平成30年度2月末現在60匹のパトロール犬が活動。毎日、2回、3回と歩いて散歩に出るので必然的に変化に気づきやすい。アプリを推進するのと同時に、犬の散歩をする方に認知症サポーター養成講座を受講してもらおうといいのでは。わんわんパトロール隊の取組は、全国的に広まっている活動の様子。高齢者に限らず、子供にも対応しているので島田市でも参考にしたい。

委員) 地域の見守りをしている。家族の方や、近所の方からの相談があるが確認し、地域包括支援センターと情報交換をしながら対応している。

委員) 川根が高齢化も40%を超えている。近所づきあいがあり、顔を見るだけで誰か分かる関係、コンビニ、駅員、バスの運転手さんなど、高齢者で注意が必要な方を見かければ、地域包括支援センターに連絡をする体制ができている。アプリについても活用が進むといいと思うが、まだ知らない人も多いと思うので普及が必要。

委員) QRコードで入れられなかったが、アップルストアでも手に入ると説明があったので、早速入れたいと思います。

委員) 広報について。認知症カフェを開催しているが、率直にやる事を広めていく時に、業界内外からネーミングが良くないという意見があった。他の事業所にも広報したが、認知症の方が「私達が行くところではないね」と話されていた。何か工夫が必要。

みまもりあいプロジェクトの推進については、若い世代、特に女性など、おばあちゃんが心配でとご家族に広めてくれるのではないか。そのような世代に馴染むものはビジュアル的なものだと思う。チラシの文字が多い。工夫が必要。

事務局) 御意見ありがとうございます。これから検討していきます。

会長) 認知症カフェにが市内でだいぶ増えていると報告にありましたが、市内で実際に実施されている方に状況やそれにもなう御意見など伺いたいと思います。清水委員はオレンジカフェを開催されてると思いますがいかがですか？

委員) 薬局なので認知症の方や、以前からご家族から相談を受けることがあった。近所の方からも認知症やもの忘れ、介護に関する相談があり、医療や介護に結びつかない方にどのようなアクセスが作れるかと考え、自宅の1階スペースをイベントスペースにしてカフェを開催している。住民とした住む中で近所の方に医療職として関わる場としている。月に1回開催しており、主に第3、第4小学校区の方で、ご家族や近所の方が相談に来たり、民生委員さんと一緒に来られたりと、ほとんどがリピーター。相談にのり、医療につなげたりしている。

会長) 大久保委員は一期一会のオレンジカフェを開催していいですが、いかがですか？

委員) 4月からスタートし、まだ数ヶ月。振り返るに、情報不十分なところもあった。率直に感じたのはそんなに需要がないと感じている。こちらから掘り起こしを行うとなるとボランティア

活動なので厳しい状況。

会 長) 初倉地区では3か所ありますが、地域包括支援センターの紅林委員、いかがですか？

委 員) 認知症カフェとして実施しているのはオレンジカフェ初倉とグラシアカフェ。グラシアカフェはデイサービスが実施、オレンジカフェ初倉は昨年発足し、昨年は地域包括支援センターで主導していたが、現在はキャラバンメイトさんが企画して開催。内容は手のアロママッサージ、講師もボランティア。保険など、資金繰りが課題になっている。ネーミングについても認知症という言葉は使用せず、居場所的な感じで実施している。

会 長) ネーミングに関して市から、提案がありますか？また検討をお願いします。

委 員) 認知症カフェをして実施しているが、高齢者の方が集まらない現状があるとお話があったが、実際にはいろいろな所に集まって井戸会議のような状態でやっていらっしゃると思うので、逆に集まっている場所に認知症カフェのスタッフが出向いて行ってはどうかと感じました。どうでしょうか？

委 員) おもしろいと感じた。ざっくばらんに会話などを楽しみ、体操なども提供できたらいいと思っている。当社はリトミックを大人向けに提供しているので、運動できるスペースが必要。環境的なマッチングができれば実現ができると思った。

事務局) 市でもしまトレや居場所を推進し、高齢者が集まる場所は増えている。国で進めている認知症カフェについては、スタッフやボランティアさん等の中に、認知症の方や、ご家族の支援ができる方がいるということが居場所と認知症カフェの大きな違い。ネーミングにこだわりはない。高齢者が集まり、年齢を重ね認知症になった時に、支援していただける場所があればあるといい。薬局や事業所で開催してくれる所が増えるといいと思っている。市内でも実際に認知症についてネーミングや周知に入れている所もない。金谷の家族会の状況についても聞きたい。

委 員) 平成29年度に介護者にアンケートを実施し、金谷地区でも家族会が必要ということになった。金谷社協が主体になり「いっぷく処・金谷」を開催し、地域包括支援センターの3職種が1名は参加している。1年になるがまだまだ周知不足で、参加者が増えない。多い時には8人位、少ないと1人の時もある。1～2名の時には話もじっくり聞いてあげられる。寝たきりの方の介護者の参加もあり、気分転換になっている様子で好評。認知症カフェを実施する事業所もないので、地区社協でがんばっている。4月にはおでかけも実施し、参加者も多かった。これからも試行錯誤で続けていきたい。ネーミングにも認知症とは入れていない。

委 員) 認知症カフェの需要について。オレンジカフェは3年目になり、先月28回目だった。24席用意しているが毎回満席。地元の間人として顔の見える関係を作っていくことが大切。新田町の民生委員さん等が積極的に紹介して下さる。ボランティアの方に、笑いヨガ、音楽セラピー、ズンバ等を提供していただき、3か月に1回位のペースで繰り返し実施することによって顔の見える関係が作れ、需要も生まれる。リピーターになってくれることで、継続的な支援も可能であり、心配な方の進行状態などもわかる。自分達の施設だけでなく、民生委員や地域包括支援センター等といかに連携していくかが重要だと感じている。

## (2) しまだ認知症ケアガイドについて・・・・・・・・・・・・・・・・資料2

### 事務局説明

#### 質疑

会 長) 認知症ケアガイドは認知症対策検討委員会で検討して作成したもの。今回の再版にあたって、御意見をいただきたい。田口委員御意見ありますか？

委 員) 小埜先生にお伺いしたいが、おおむね6か月という期間はどのなのでしょう？

会 長) いいのではないのでしょうか。その位の間継続しているということ。

- 委員) 昨日体調が悪くても忘れあったとか、朝ドラ見てたら女優さんの名前が出てこないとかでも受診とかありますからね。もう少し長い目を見たほうがいいですからね。分かりました。
- 会長) 車の運転については、軽度の所でいいですか？
- 委員) 中等度では該当した方が、心配になられるかもしれませんね。
- 会長) どこかに入れたほうがいいですし、軽度でいいですかね。難しいですが。
- 委員) これだけで、すべてが決まるわけではないですからね。
- 会長) 認知症カフェについて、バーが最期まで延びていますが、いかがですか？
- 委員) 家族の支援サービスでもあると思っていますので、いいのではないのでしょうか？ご家族の方がものすごいストレスを抱えているので、そのような方にも利用していただきたいですし、むしろ認知症の疑いがあるもっと以前の段階から来ていただきたいと思っています。
- 会長) 普段、認知症ケアガイドを利用されている地域包括支援センターから御意見ありますか？鈴木委員いかがでしょうか？
- 委員) 軽度のうちからの関わりや、予防が大切と云われている。MC I（軽度認知障害）について入れてはどうか。4大認知症の記載があるが、そこにMC Iについての言葉の意味など、載せてもいいのではないか。
- 会長) 貴重な御意見ありがとうございます。
- 委員) 4大認知症の下の、小さな字で説明されている「このほかにも・・・」の上に記載してはどうでしょう。
- 会長) 認知症になる以前の状態について、ということですね。
- 委員) MC Iの概念を記載したほうがいいと思います。認知症ではないが、今までより少しいろいろなことができなくなっている状態があることの説明を。
- 会長) そのような文章を追加して行く方向で、事務局と検討したいと思います。
- 委員) みまもりあいプロジェクトについて記載があり、QRコードがあるが、これだけだと見た方がダウンロードするか疑問。詳細はこのページまでとかの記載が必要ではないか。
- 委員) 認知症デイで、いつも認知症の方に関わっている。本日の情報をご家族等に伝えていけたらいいと感じた。
- 委員) 認知症ケアガイドの認知症サポーター養成講座の部分にお問い合わせ先が書いてあったが、なくなった理由はあるか。入れておいた方がいいのではと思う。
- 事務局) 以前は、認知症ケアガイドの担当課と、認知症サポーター養成講座の担当課が異なっていたため記載していたが、現在は包括ケア推進課が担当しているので削除した。あったほうがいいという御意見をいただきましたが、どうでしょうか？
- 会長) 高木委員、どうでしょうか？あったほうがよろしいでしょうか？
- 委員) 裏に記載してあるのでいいのではないか？
- 事務局) 事務局で相談しましたが、実際には認知症サポーター養成講座は地域包括支援センターへの相談も多いと思いますので、連絡先を入れたいと思います。ありがとうございました。
- 委員) 民生委員の定例会にみまもりあいプロジェクトの説明に来てくれたが、時間が短かった。民生委員の中にも参加したい方がまだいると思う。また、考えて欲しい。
- 事務局) 御意見ありがとうございます。

#### 4 閉会

- 事務局) 次回は1月頃を予定しています。詳細は後日連絡します。長時間にわたりありがとうございました。